

---

---

# 総合的な学習の時間における情報機器の活用

豊里小学校

---

---

## 1 単元名 ふるさと豊里を知ろう ～豊里名物を開発しよう～ (郷土料理グループ) 第3・4学年

### 2 単元の目標

- ・豊里の野菜を使った料理作りを通して、自分たちの生まれ育ったふるさと豊里をよりよく知り、自信や誇りを持つとともに、地域の一員として郷土を愛する心を育てる。
- ・友達と協力しながら、豊里名物の開発に必要な資料を収集・選択して課題解決を図っていく態度を育てる。
- ・自分なりに考えを持って、まとめたり発表したりすることができる。

### 3 活動計画の概要

- ・4月 総合的な学習の時間について知る。
- ・5月 豊里地区を探検して、各自の課題(郷土料理グループ)を持つ。
- ・6月 豊里の野菜を使った料理を考えよう。  
豊里の野菜ピザ 豊里の果物パフェ 豊里の野菜クッキー
- ・7月 豊里の野菜を使った料理を作ろう。  
野菜ピザ メルヘンパフェ お楽しみクッキー  
(ミトマ・きゅうり・ピーマン・ねぎ・夏みかん・いちご・人参・やまといも)
- ・9月 豊里名物「豊里クッキー」の開発をしよう。  
きゅうりクッキー さつまいもクッキー 人参クッキー ねぎクッキー やまといもクッキー
- ・10月～11月  
豊里クッキーの味の感想や工夫点・レシピをまとめよう。  
中間発表会に向けて準備をし、わかりやすく発表しよう。
- ・12月 より良いクッキー作りを目指して今後の計画作りをしよう。
- ・1月 豊里クッキーを改良し、専門家に味をみてもらいアドバイスをもらおう。  
妻沼のお菓子屋さん 熊谷のクレープ屋さん
- ・2月 豊里クッキーを完成し、発表会に向けてまとめよう。
- ・3月 発表会で今までやってきたことを発表しよう。

### 4 情報機器活用の意図

郷土料理は3・4年生16名からなる異学年グループである。学級や学年を越え、協力して課題を解決している。特に、情報機器の活用においては4年生が中心となり、教えたりリードしたりしている。



本単元における情報機器の活用としては、まず、『課題作り』の段階でインターネットの検索方法や必要なページの印刷の仕方を学びながら、いろいろな料理やレシピなど必要な情報を集めることができるようにしたい。次に『追究』から『まとめ』の段階では、材料やレシピを「はっぴょう名人」にまとめて発表したり、交流先に送ったりする。ここでは、まとめ方だけではなくプレゼンテーションの方法も身に付けさせたい。また、Eメールやスタディノートを使い他校との交流を図っていきたい。

### 5 本時の活動

(1)目 標

- ・グループ毎に協力して、話し合ったり調べたりしてレシピを完成させることができる。
- ・情報機器の特性を生かして、効果的に使うことが出来る。

(2)展 開

学習活動	指導上の留意点・ 教師の支援・評価	資料
1.本時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに集まり、クッキーの完成に向けて意欲を高める。</li> <li>・司会者を支援する。</li> </ul>	
<p>専門家の意見を聞いて、もっとおいしいクッキーにしよう</p>		
<p>2. 専門家の意見を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お菓子屋さん「さわた」工場長の感想を聞く。 (手紙)</li> </ul> <p>におい、形、味、焼き方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クレープ屋さん「マリカ」の感想を聞く。(手紙)</li> </ul> <p>味、形について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が直接聞きに行けないため、あらかじめ試食していただいた感想や意見を教師から聞く。</li> <li>・いただいたレシピから野菜を入れる時の、粉・砂糖・バターの比率を見て、自分たちの分量を見直す。</li> <li>・工場内の写真や帽子から衛生面についても考えさせる。</li> </ul> 	<p>手紙</p> <p>工場内の写真 帽子 レシピ</p> <p>手紙</p>
<p>3.グループで検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期にボランティアとして来ていただいたときからの成長ぶりや味についての意見を聞き、次への意欲を高める。</li> <li>・専門家の意見とともに料理の本やサイト「お料理上手」等も参考にして今後の作り方を決めていく。 (評)情報機器を効果的に使おうとしているか。</li> </ul> 	<p>P C ソフト 本</p>
<p>4.まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに決まったことを報告し合う。</li> <li>・お礼の手紙を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いに報告し合い、おいしいクッキー作りへの意欲を高め、次時への意欲を持つ。</li> <li>・ご意見をいただいたところにお礼の手紙を書く。(一太郎スマイル)</li> <li>(評)課題解決に向けて意欲的に取り組むことが出来たか。</li> </ul>	<p>一太郎 スマイル</p>

6 成 果

お菓子作りを始めるにあたっては、インターネットの検索が大いに役立った。色々な情報の中から児童は自分たちにあったものを取り出していた。また、「はっぴょう名人」ではまとめるだけでなく、プレゼンテーションの仕方も学び、プロジェクターを使ってより多くの人にわかりやすく伝えることが出来た。交流校の吉田小学校とはEメールやスタディノートでレシピの交換をし、交流の幅も広がってきている。